ぷちまるえ

女性協議会

各地連女性協で定期大会開かれる

中四国・東北・九州の各地連の女性協で定期大会が開かれました。その報告によると、産休・育休取得については、少しずつ前進している傾向ではあるものの、新たに現在、我々がもつ次の問題が浮き彫りになりました。◆ますます減少している女性の正社員の採用人数。◆派遣社員や、契約社員など、労働条件の多様化。

労働条件、環境状況の違いはあっても、少人数であるからこそ団結して、引き続き自分らしく働ける職場を、自らの手で勝ち取っていきましょう。

◇東北地連女性協◇

民放の女性とりまく環境 昔に戻っている

東北地連女性協の定期大会に参加された皆さん

10月15・16日の土日、福島県福島市穴原温泉において東北地連女性協議会「第三十六回定期大会」が開催されました。紅葉にはまだ少し早かったのですが目の前の崖ではシカの子供が草を食む様子も見られました。

九単組十六人・女性協・地連からで計十八人の参加でした。初日は福島県鳥獣保護センター所長、溝口俊夫さんの講演。動物学から始まり環境問題から人間の心理、さらには様々なひとから得る無限の可能性…、最終的には放送に携わる私たちに何ができるかと、多くの事を考えさせられました。懇親会では福島の地酒と地焼酎の飲み比べ。幹事部屋での二次会でも熱く語る者あり、パワー溢れる夜となりました。

翌日の大会は各局の現状報告に時間をかけ、系列や職種を越えて情報交換ができる貴重な機会を作りました。小さな事柄でも泣き寝入りすることなく、見過ごすことなく、よりよい環境を目指して主張する姿勢を学べました。

参加者全員の皆様から一言ずつ頂きましたがその中で、「民放各局で働く女性を取り巻く環境はまた昔に戻ってきている」という現状が集約されていると感じた一言がありました。

一つは、女性協の組織としての衰退です。単純に、女性の正社員採用が減少しているために女性協組織の構成員が減っており、組織的な活動ができない状況にある局が少なくないということです。

二点目は女性の雇用状況の変化、契約社員化があげられます。中でも契約社員として入社し、数年後に正社員になる人とならない人がいたというケースが数件見受けられました。契約社員が組合参加の権利を持つこと、契約社員として入社する際に、数年後に正社員になるかならないか、またその明確なボーダーは何か…、といった部分も今後の厳しいの一つ。仕事がしやすい環境作りは、まず自分から行動を起こすという勇気を持つ事が大事なのだと思いました。

・議　長　雫石　多都子（福島中央テレビ労組）

◇中四国地連女性協◇

育休の取りやすさ 局によって違い広がる

中四国地連の女性協議会定期大会は、10月22日に広島で行われました。

「できるだけ参加しやすくしたい」という主旨で、昨年と同じ一日だけの開催となりました。参加者は、女性協委員十人、単組三人、中四国地連二人、労連本部一人の計十六人でした。人数的には例年並みなのでしょうが、一人も参加のない単組があるのは、気になるところです。

大会での単組報告では、「育休は周囲のフォローもあり取り易い状況で、現在育休中の人も多い」という単組がある一方で、「女性社員自体が少なく代休さえも取れない勤務状況で、今後、結婚や出産に大きな不安を覚えている」という単組もあり、職場環境の違いを感じさせられました。

また「派遣社員の多い職場で、派遣社員とどう接していったらよいのか悩んでいる」「組合活動がいつも同じ顔ぶれ。後輩たちへの引継ぎが難しい」「新人事制度が導入され、組合の存在価値がたいが危うくなっている」など、女性同士の会議ならではの率直な発言、そして問題提起がなされました。

中四国地連女性協の定期大会に参加された皆さん

このあと、労連本部から参加された岩田牧子さんから男女雇用機会均等法06改正などについての解説をいただき、財政報告・役員改選を行って無事大会を終了しました。

環境の違いはあっても、このようにそれぞれの抱える問題を報告し、また先輩からのアドバイスを聞ける機会があることは、貴重なことだと感じました。

◇九州地連女性協◇

困った人たちへの援助 労働組合の原点へ

九州地連女性協定期大会でお話しいただいた伊地知貴知子さん（元、宮崎放送）

九州地連女性協議会「第三十二回定期大会」は、10月30日の日曜、福岡市で開催されました。九州地連から大甲委員長、労連本部から川村・中央執行委員もかけつけていただき、初参加のTNCプロジェクト労組を含む十四単組、合計三十一人の参加で、活発な討論が展開されました。

産休や育児休業、生理休暇、妊娠障害休暇といった女性ならではの問題はもちろんのこと、年金の問題については、より生活者としての立場から、アウトソーシングの問題については、対象者に女性が多い点など、組合全体の問題を女性の視点からとらえた意見も多く、充実した内容になりました。

九州地連女性協の定期大会に参加された皆さん

九州地連女性協のスローガンである「産休の有給化」については、今年勝ち取ったサガテレビ労組に続けと、無給の単組だけでなく有給の単組も一緒に継続して取り組む事を確認しました。

また、今回、宮崎放送を9月末に退社された伊地知貴知子さんをお迎えして、伊地知さんの話の中でよく出てきた言葉、「美しい人生」「思いやり」。日々忙しく仕事をしているうちに、つい、失ってしまう可能性がある大切なことです。

「労働組合は困った人たちに手を差し伸べることができる。これは会社にはできない」「労働組合の原点は他人への思いやり、気遣い」。厳しい情勢が続き、暗い話題になりがちな組合活動ですが、この原点を大切に守り、粘り強く皆さんと一緒に活動していきたいと思います。

新役員は、入社二年目から風雪三十数年（本人談）のベテランまでと、大家族のような顔ぶれとなりました。宜しくお願いします。

・議　長　古川　恵子（長崎放送労組）
・副議長　田原　久美子（九州朝日放送労組）
・書記長　藤井　陽子（九州朝日放送労組）

「デジタル時代を生きる後輩女性労働者に送る言葉」と題してお話を伺いました。約三十分の短い時間の中にぎっしりと大切な言葉がつめられており、参加者は一言も逃すまいと聞き入っていました。

講演後も若い組合員を含む多くの質問（「ロックアウトって何?!」など）が挙がり、丁寧にお答えいただきました。

伊地知さんの話の中でよく出てきた言葉、「美しい人生」「思いやり」。日々忙しく仕事をしているうちに、つい、失ってしまう可能性がある大切なことです。

「労働組合は困った人たちに手を差し伸べることができる。これは会社にはできない」「労働組合の原点は他人への思いやり、気遣い」。厳しい情勢が続き、暗い話題になりがちな組合活動ですが、この原点を大切に守り、粘り強く皆さんと一緒に活動していきたいと思います。

新役員は、入社二年目から風雪三十数年（本人談）のベテランまでと、大家族のような顔ぶれとなりました。宜しくお願いします。

・議　長　古川　恵子（長崎放送労組）
・副議長　田原　久美子（九州朝日放送労組）
・書記長　藤井　陽子（九州朝日放送労組）

2005年度・女性協役員一覧

女性協担当中央執行委員　川村　高子（熊本放送労組）

議　長　神内　美香子（NTV映像センター労組）
副議長　曽我　有紀子（日本テレビ労組）
書記長　岩田　牧子（テレビ東京労組）
常任委員　中山　登紀子（テレビ朝日労組）
常任委員　足立　美香（日本テレビ労組）

女性協URL：http://www.minporren.jp/women/index.html